

令和5年度いわき市環境基本計画（第三次）年次報告書 説明資料

1 年次報告書の概要

(1) 根拠

いわき市環境基本条例

（年次報告書）
第9条 市長は、環境基本計画に基づき実施された施策の実施状況を明らかにするため、年次報告書を作成し、これを公表しなければならない。

(2) 構成

- 施策の展開（令和5年度の主な取組み内容）
- 環境指標
 - ・ 令和5年度の実績と評価
 - ・ 現状や課題
- 今後の取組み

(3) 環境指標に関する進捗状況の表記及び令和5年度実績

令和5年度における32の環境指標の実績は、資料2 P.3～4を参照してください。

表記	進捗状況の説明	令和5年度実績 (32指標中)
◎	令和5年度の実績値が、目標値を達成している。	3指標
○	令和5年度の実績値が、目標値に向かって推移している。	15指標
△	令和5年度の実績値が、目標値に向かって推移しているが、前年を下回った。	4指標
×	令和5年度の実績値が、基準値を下回っている。	10指標

(4) その他

本年次報告書は、「いわき市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）（＝いわき市循環型オフィスづくり行動計画）」の実施状況報告書も兼ねるものとなります。

2 令和5年度年次報告書のポイント

(1) 進捗状況の表記が「◎」となっている環境指標の主なもの

指標名	基準値	実績値	目標値	進捗状況
指標4 自家用車利用に伴う温室効果ガス排出量:kl	389.4	309.6	389.4	◎
指標9 リサイクル率:%	22.3	22.3	22.0	◎

指標4

「自家用車利用に伴う温室効果ガス排出量」（実績値は令和3年度のもの。）については、電気自動車等の普及や新型コロナウイルス感染症の感染拡大に起因する旅客者数の減少によって、ガソリン等化石燃料の使用量が減少したものと考えられます。今後も、電気自動車や燃料電池自動車の普及を推進します。

指標9

「リサイクル率」については、清掃センターから発生する焼却灰の全量リサイクルや製品プラスチックの再商品化などにより維持しています。今後、ペーパーレス化の影響等による古紙回収量の減少によりリサイクル率は低下傾向で推移するものと見込んでおり、ごみの再資源化の拡大に向けて調査・検討を進める必要があります。

(2) 進捗状況の表記が「○」となっている環境指標の主なもの

指標名	基準値	実績値	目標値	進捗状況
指標1 太陽光発電導入量:kW	24,035	31,043	37,000	○
指標8 一人一日当たりのごみ排出量:g/人・日	1,016	941	900	○
指標15 野生動植物等調査参加者数:人(累計値)	2,549	4,952	7,000	○
指標23 大気環境基準達成率:%	87.3	88.9	100.0	○
指標27 環境アドバイザー派遣事業の受講者数:人	14,808	19,781	20,000	○

指標 1

「太陽光発電導入量」については、ゼロカーボンライフスタイル促進補助事業における住宅向け太陽光発電施設の補助により、目標値達成に必要とされる約 1200kW/年の増加を上回る結果となったものの、引続き導入促進に努める必要があります。

指標 8

「一人一日当たりのごみ排出量」については人口減少により、ごみ排出量が減少していますが、目標達成に向け、今後、焼却ごみを中心とした排出抑制、減量施策を推進するとともに、分別の徹底等による資源化を図る必要があります。

指標 15

「野生動植物等調査参加者数」については、市内小学校の協力のもと、目標達成に向けて順調に推移しています。生き物調査や生物多様性普及啓発イベントの実施を通して、生物多様性に関する理解の促進、自然とのふれあいの推進など学習機会の創出に努めます。

指標 23

「大気環境基準達成」については、基準より改善傾向にありますが、6項目のうちの一つ、光化学オキシダントについては全ての測定局で環境基準を超過しています。その主な原因は、春から夏にかけての南風による関東圏からの移流等が考えられています。

指標 27

「環境アドバイザー派遣事業の受講者数」については、本事業が学校活動などに活用され、目標達成に向けて順調に推移していますが、環境アドバイザーの確保（若い世代のアドバイザー登録など）が課題となっています。

(3) 進捗状況の表記が「△」となっている環境指標の主なもの

指標名	基準値	実績値	目標値	進捗状況
指標3 家庭から排出される市民一人あたりの温室効果ガス排出量:t-co2/年	2.01	1.70	1.22	△
指標 29 市本庁舎等におけるエネルギー使用量の原単位:kl/m ²	24.13	23.92	21.48	△
参考指標 31 市内全体からの温室効果ガス排出量	3,055	2,447	1,527	△

指標 3 ・ 参考指標 31

「家庭から排出される市民一人あたりの温室効果ガス排出量」および「市内全体からの温室効果ガス排出量」（両指標とも実績値は令和3年度のものの。）については、家庭における節電行動や省エネ効果の高い製品への買い替え、再エネの導入拡大による発電の二酸化炭素の排出量削減などにより減少していますが、目標値までは到達してない状況です。
引続き、住宅向けの太陽光発電システムや省エネ機器の普及拡大に努めます。

指標 29

「市本庁舎等におけるエネルギー使用量の原単位」については、庁内の各施設管理者等の意識醸成や省エネ改修に関する情報提供に積極的に取り組んでいく必要があります。

(4) 進捗状況の表記が「×」となっている環境指標の主なもの

指標名	基準値	実績値	目標値	進捗状況
指標5 熱中症搬送患者数:人/年	207	367	減少を目指す	×
指標 10 食品ロス発生量:t/年	6,320	9,348	4,800	×
指標 20 イノシシの推定生息数:頭/年	13,351	27,317	7,689	×
指標 24 水質(河川)環境基準達成率:%	100.0	88.4	100.0	×

指標 5

「熱中症搬送患者数」については、熱中症による救急搬送人員は、国内で毎年数万人を超え、市内でも、令和5年に過去最多を記録するなど、令和元年度の基準値を上回る状況となっており、予防に向けた普及啓発がますます重要となっています。

指標 10

「食品ロス発生量」については、令和5年度は令和4年度と比較し、家庭から排出される食品廃棄物量が増加しました。今後、フードドライブの推進など、食品ロスに関する市民の意識向上を図り、目標達成に向け取組みを強化していく必要があります。

指標 20

「イノシシの推定生息数」について、福島県イノシシ管理計画（第3期。令和元～5年度）に基づく推計値が増加しました。イノシシの捕獲頭数は令和元年度以降、減少傾向です。
感染症（豚熱）の影響などからイノシシの実際の生息数自体が減っている、との狩猟者の声もありますが、今後もイノシシの捕獲を推進し、農作物等への被害防止に努めます。

指標 24

「水質（河川）環境基準達成率」については、令和5年度の海域調査の結果、3地点でCODが環境基準未達成となりました。CODが高くなる要因は、河川等からの有機物の流入の増加の影響、水温上昇による海水攪拌の影響、日照の増加によるプランクトンの増殖の影響等が推測されます。